



JCI 2026 Journal

発行 / 一般社団法人 高槻青年会議所

一般社団法人高槻青年会議所 2026年度 スローガン

不撓不屈の挑戦と行動

President's Statement 2026年度 理事長所信

第60代 理事長
入江 怜

Irie Rei

有限会社入江新聞舗
取締役



はじめに

私たちは、地域に真摯に向き合い、行動することで、より良い未来を創る責任を担っています。時代の変化が加速し、地域課題が複雑化する今、必要とされているのは、個人力だけではなく、多様な人々と組織が連携し、新たな価値を生み出すことです。地域の未来を形づくるためには、立場や組織の枠を超え、共に手を取り合うことが不可欠です。

「不撓不屈の挑戦と行動」を掲げる2026年度、私たちはこれまで培ってきた経験やネットワークを最大限に活用し、より多くの仲間とともに、地域社会に貢献する運動を展開します。その先に見据えるのは、一過性の活動ではなく、未来へとつながる持続的な地域づくりです。そして、困難や壁に直面しても決して諦めることなく挑戦し続けることでこそ、成功体験——「勝つ(限界を超えてやりきった上での目的達成)」という実感が生まれます。ここで言う「勝つ」とは、結果としての成功だけを指すものではありません。自分自身の限界を越えてやりきったとき、仲間と支え合いながら困難を乗り越えたとき、地域や組織にポジティブな影響を与えられたと実感したとき、そのすべてが「勝つという実感」につながります。このような実感が、私たち一人ひとりの自己肯定感を高め、組織全体のモチベーションを押し上げ、さらなる挑戦と成長へとつながっていきます。

2026年度の終わりに、私たちが目指す姿は明確です。すべての会員が「不撓不屈の挑戦と行動を行い、委員会や事業を通じて、自走型のメンバーが育ち、挑戦と行動を起こす文化が組織全体に根づいている——それが、私たちが目指す”成長と挑戦の循環”が生まれるJCI”です。

この運動を前に進めるためには、まず私たち一人ひとりが問い直す必要があります。「今、自分にできることは何か?」「組織として果たすべき責任は何か?」多忙や日常の慌ただしさ、あるいは様々な理由を言い訳にして、立ち止まっていないでしょうか。自分自身の「限界」を決めつけていないでしょうか。今一度、「なぜ私たちはJCI活動をしているのか」という原点に立ち返り、自らの意義を再確認してください。答えは、挑戦の先に必ず見つかります。そして、活動に積極的に関わっていないメンバーに対しても、目配り・気配り・心配りをもって寄り添い、誰もが「挑戦できる場」としてのJCIであり続けたいと考えています。

まずは、参加すること。共に汗を流し、時には困難に立ち向かい、全力で駆けつけてください。負荷をかけ、挑戦した先にこそ、「成長」があります。そして、その先にこそ、あなた自身の「答え」が見つかるはず。青年会議所でしか味わえない「達成感」があります。それは、地域の人たちの笑顔、心からの「ありがとう」の言葉、そして何よりも、同じ志を持つ最高の仲間と共に歩んできた道のりにこそ宿るものです。

私は、その道を共に歩む仲間でありたいと願っています。一度、私を信じてついてきてください。あなたの意識が変われば、行動が変わる。行動が変われば、人生が変わる。その一歩を踏み出せるのは、あなた自身です。さあ、共に人生を変える一歩を歩みましょう。挑戦の先にある景色を、仲間と共に掴み取りましょう。

組織の発展と会員拡充

地域に持続的なインパクトを与える運動を継続するためには、私たち自身が常に進化し、成長し続ける組織である必要があります。青年会議所は単なる地域貢献団体ではなく、リーダーシップの開発と成長の機会を提供する場です。この使命を全うするためには、会員一人ひとりが「なぜここで活動するのか」という参加意義を明確に認識し、当事者意識を持って挑戦を続けることが不可欠です。個々の会員が小さな挑戦を積み重ね、その過程で自己成長を実感できる組織であれば、自然と活力が生まれ、組織全体のエネルギーは高まります。失敗を恐れず、自らの可能性に挑戦することで、会員は地域社会だけでなく、自身の人生にもポジティブな変化をもたらします。「自分が変われば、地域も変わる」——この信念のもと、挑戦する人材を育てる組織文化を醸成します。

さらに、会員自らが地域課題や社会テーマについて考え抜き、提案・発信する機会を創出します。特に「主権者教育の推進」にも通じるこの取り組みは、地域社会の一人としての意識を高めると同時に、能動的な学びと自己表現の場として会員の成長を促します。自ら考え、議論し、形にする経験を通して、「自走型」の人材育成と社会参画の意識醸成を図ります。一人ひとりのメンバーが目的や課題を自ら見つけ、与えられた役割に依存せず、受け身ではなく能動的に考え・動き・行動を積み重ねていく過程を通じて、会員は自己の成長を遂げるとともに、組織全体もまた地域社会に対し継続的に価値を生み出し続ける存在となります。

また、組織の持続的な発展には、新たな仲間との出会いが不可欠です。単なる数の拡大ではなく、JCIの理念に共感し、共に未来を創る意志を持つ人材の獲得こそが重要です。そのためには、私たち自身がこの組織の使命や意義を深く理解し、それを自らの言葉で発信できることが求められます。JCIの活動を通じて得られる成長・挑戦・達成感を自ら体現し、地域社会に対して「JCIに参加したい」と思わせる魅力を発信し続けることが必要です。組織拡大は、単なる内部強化にとどまらず、地域社会全体に対しても新たな可能性を生み出します。一人でも多くの仲間と出会い、共に挑戦し、地域の未来を共創する。これが私たちの目指す組織の姿です。

地域資源の活用と地域連携の強化

高槻市・島本町には、豊かな自然、歴史的資源、伝統文化、特産品など、数多くの地域資源が存在しています。しかし、その多彩な地域資源は十分に活用・発信されているとは言えず、地域の魅力を最大限に引き出すための新たなアプローチが求められています。私たち青年会議所は、まず地域のリーダーとして、これらの地域資源を深く認知し、その価値を積極的に発信していく責務があります。

特に、インバウンド向けの体験型観光の創出や、地元企業・団体とのコラボレーションによる魅力発信は、高槻市・島本町の新たな可能性を広げる鍵となります。地域ならではの文化体験、食文化、伝統行事など、訪れる人々が「ここでしかできない体験」を味わえる観光コンテンツを企画・推進し、国内外からの関心を高めていきます。さらに、地域資源を活用した広報活動やブース出展等を通じて、持続的な地域活性化を図ります。

また、こうした取り組みを通じて、地域に根差した事業の本質的な目的である郷土愛の醸成を意識し、地域に誇りを持つ市民を増やしていくことが重要です。地元企業や行政、NPOなどとの連携を通じて、地域の魅力を再発見・再構築し、次世代に語り継ぐべき価値として共有していきます。

そして今後は、地域企業・団体との賛助会員の推進にも積極的に取り組んでいきます。共に地域を支えるパートナーとして、賛助会員制度の存在をより明確に位置づけ、青年会議所との協働による価値創造を目指します。単なる協賛・協力にとどまらず、企業とLOMが互いに刺激を与え合いながら、持続可能な地域運動を共に築いていきます。私たちは、「青年会議所」という枠にとらわれず、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の未来を共に考え、行動する姿勢を貫きます。地域課題の解決にとどまらず、地域に新たな価値を生み出す運動を展開し、次世代に誇れるまちづくりに貢献していきます。

未来に繋ぐ人材の育成

青年会議所は、地域の未来を担う人材の育成にこそ、その真価が問われる存在です。私たちは、単に活動の成果を一時的なものにするのではなく、そこに関わるすべての人が自己変革を経験し、成長を実感できる運動を展開します。

地域に根ざした伝統行事である「わんぱく相撲」では、礼節を重んじ、仲間と全力でぶつかり合う体験を通じて、子どもたちは「負けても立ち上がる強さ」を学びます。土俵の上ではすべての挑戦者が対等であり、逃げることでできない真剣勝負がそこにあります。応援し合う仲間の存在や、真つぐな勝負の場を通して、子どもたちの心には大きな学びと自信が刻まれることでしょう。こうした体験を通じて、文化・スポーツを媒介に他者と向き合い、社会性や倫理観、協調性を自然と育むことができます。

また、人生100年時代を見据え、年齢や立場に関わらず誰もが学び続けられる地域社会の実現が求められています。「リスクリング(学び直し)」や「生涯学習」の価値を見つめ直す機会を設け、個人の成長が組織や地域に与える好循環を体感し、自己の可能性を広げ、地域で輝く人材を育てていきます。

そして、子どもたちが楽しみながら最新の技術に触れ、デジタル社会を生き抜く力を自然と学べる場として、子どもたち自身が「未来を創る主役」であることを実感できる機会を提供します。テクノロジーが生活に溶け込む時代において、技術を遠ざけるのではなく、正しく理解し活用する力を育むことこそが、次代の人材育成において不可欠です。

私たちは、こうした活動を通じて、年齢や立場を問わず、一人ひとりが「自分を信じる力」と「他者となつがる力」、そして「新しい時代を切り拓く力」を身につけ、やがて地域の未来を担う原動力となってくれることを信じています。



変化に適応する組織改革

社会の変化がますます加速する現代において、私たち青年会議所もまた、その変化に対応し続けなければなりません。そのためには、私たち自身が常に進化し続ける覚悟を持つことが不可欠です。従来のやり方に固執するのではなく、物事の本質や目的を見極め、時代に即した柔軟でしなやかな組織運営を目指していきます。DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進をテーマに、デジタル技術を活用した業務効率化や情報共有の新たな可能性を探ります。

また、組織内外に対する発信力の強化も不可欠です。SNS発信や「Voice」などの情報発信ツールを通じて、JCIの活動や理念を「伝わる形」で可視化し、地域の共感を呼ぶブランディングを構築します。地域から信頼され必要とされる組織であり続けるためには、対外発信だけでなく、内部の価値共有もまた重要なテーマです。変化や失敗を恐れるのではなく、不撓不屈の挑戦と行動こそが次の成長を生み出します。広い視野と他者への配慮を持ちながら、一人ひとりが前向きに行動し、連携し合える組織を築いていくことが重要です。今こそ、組織の在り方そのものを問い直すときです。会員一人ひとりがその能力と個性を最大限に発揮できる環境を整えることで、信頼と挑戦が循環する、より強固な組織基盤を築いてまいります。

60周年に向けて

2026年度は、高槻青年会議所が創立60周年を迎える2027年に向けた極めて重要な「準備の年」です。どのようなメンバーと、どのような組織でその節目を迎えるのが、今まさに問われています。私たちが目指すのは、自ら課題を見つけ、他責にせず、前向きに行動できる「自走型の人材」が躍動する組織です。すべてのメンバーが「挑戦の当事者」となり、誰かに背中を押された経験や、今度は他の誰かを支える力に変えていく。そんな挑戦の連鎖こそが、高槻青年会議所の組織価値を高め、60周年を迎えるにふさわしい姿へと導きます。本年度は、未来への進化のために「基盤を整える年」と位置づけ、既存の枠にとらわれない柔軟な組織運営を推進します。LOM内外における多様な出向経験や学びを積極的に還元し、メンバーが意志をもって「opportunity(意志ある選択)」を掴み取れる環境を構築し、「chance(偶然)」を待つのではなく、自らの意志で機会を選び取り、行動へとつなげていく姿勢が、次代を切り拓く力になります。

また、高槻JCIの歩んできた歴史や、先人たちが築き上げてきた想いを学び、次代に誇りをもってバトンをつなぐための機会を創出していきます。60周年に向けては、周年準備室を中心に、対内や対外の周年事業・式典の調査・研究を行い、そして周年機運の醸成にも注力します。LOM内では、歴史の継承を通して誇りを育み、全メンバーが成長と役割を実感できるような人材育成に取り組みます。こうした一つひとつの積み重ねが、60周年を単なる通過点ではなく、「次の時代への希望と覚悟を込めた起点」へと変えていくはず。す。

最後に、これまで高槻青年会議所を築き上げてこられた先輩諸兄姉のご功績に心から感謝申し上げます。その熱い想いをしっかりと受け継ぎ、今を生きる私たちが確かな意志と行動力をもって未来を創り、次代へと力強く歩みを進めてまいります。

おわりに

挑戦と行動には、時に「修練」という高い壁が立ちちはだかります。その壁を越えるには、一人の力だけでは足りません。仲間を信頼し、助け合い、支え合うことで、初めて乗り越えることができます。挑戦の先にある苦しみや達成の喜びを共有する中で、かけがえのない絆が生まれます。そして、いつしかその仲間は「生涯の友」となります。私自身、これまで多くの壁にぶつかってきました。そのたびに、先輩諸兄姉の皆様や現役の仲間を支えていただき、なんとか乗り越えることができました。一つひとつのターニングポイントには、いつも高槻JCIの存在がありました。その経験があるからこそ、私はこの組織を「かけがえのない存在」だと断言できます。高槻JCIには、ただの団体ではありません。そこにいる仲間は「家族」です。誰一人として欠けてはならず、全員が必要な存在です。だからこそ、私はこの組織の長として、すべての会員が「高槻JCIに所属して本当によかった」「自分が一番成長できた」と心から実感できる、そんな組織へと導いていく覚悟です。

「不撓不屈の挑戦と行動」なくして、未来を変えることはできません。そしてその挑戦は、決して一人では成し遂げられません。仲間と共に歩み、支え合い、連携することこそ、新たな価値が生まれ、困難を乗り越える力となります。

挑戦を積み重ねた先に得られる「成功体験」は、私たち自身の自信となり、次なる挑戦への意欲を生み出します。この好循環が、組織の力を高め、より大きな運動を生み出す原動力になります。だからこそ、私たちは誰一人取り残すことのない組織運営を目指さなければなりません。それぞれのメンバーが、自分からの関わり方でJCIに居場所と意義を見出し、いつでも挑戦できるような、あたたかく見守り、そつと背中を押せる組織でありたいと願っています。

60周年に向けての歩みは、過去を振り返るだけでなく、未来を創るための覚悟を示すものです。新たな時代に向けて、誰よりも前向きに、誰よりも強く、そして誰よりも優しく、仲間と共に歩んでいきましょう。さあ、共に人生を変える一歩を歩みましょう。挑戦の先にある景色を、仲間と共に掴み取りましょう。

ASPACウランバトル大会



ASPACウランバトル大会にてブース出展を行いました。姉妹LOMと共に計画段階から打ち合わせを重ね、姉妹LOMと共にASPACジャパンナイトでのブース出展を行いました。当日に至るまでも高槻JCメンバーが姉妹LOMの現地へ赴き、様々な交流の機会を生み出しながら関係性の構築を図ることができました。

川添まつり



地域住民が世代を超えて集い、地域文化を楽しみながら継承していくことを目的として、夏祭り事業を開催しました。かつて地域で親しまれていた「川添まつり」の精神を受け継ぎつつ、新たな形で地域のつながりを再生する取り組みとして、高槻市川添公園を会場に実施しました。当日は、地域の伝統である盆踊りを中心に、地元事業者による緑日ブース、子ども向けの体験型ブース、幻想的な竹灯籠のフォトスポットなど、多彩な企画を展開し、来場者が世代を超えて楽しめる場を創出しました。



賛助会員制度のご案内

— 誇りを胸に、地域の未来をともに —

誇りを胸に、ともに歩んでくださる賛助会員を募集しています

私たち高槻青年会議所(高槻JC)は次代を担う若者の育成や地域活性化の事業を通じ、社会の課題を解決することで持続可能な地域を創ることを目指しています。この志に共鳴し、活動を支援して下さる「賛助会員」を募集しています。



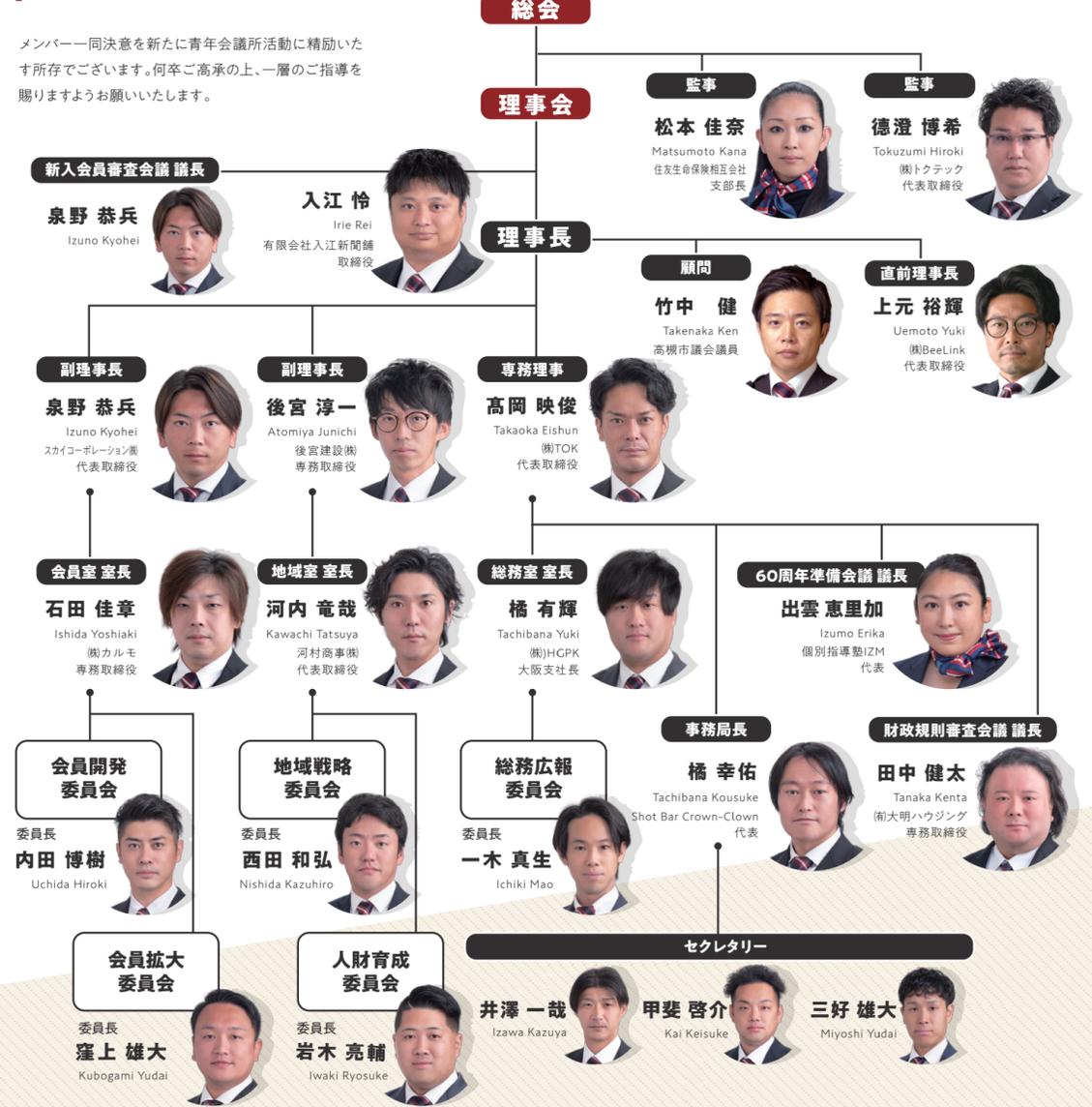
協働
“持続可能な地域を創る”
JC会員と賛助会員が手を取り合い、地域課題をともに解決し、地域経済を活性化しながら、持続可能で誇れる地域を創る

高槻市・島本町の未来を見据え、誇りあるパートナーとしてともに歩んでいただけることを願っています。

会費	ご賛助いただくメリット
入会金：不要 年会費：1口 24,000円 ※口数に応じてご登録いただけます	【例会参加】 毎月の例会に1口につき2名までご参加いただけます。 【情報提供】 活動のご案内をいち早くお届けします。 【PR機会】 年2回、例会前にPR時間を設けています。チラシや商品配布は制限なく行っていただけます。 ※詳細は賛助会員PR運営ガイドラインでご確認ください

不撓不屈の挑戦と行動

Executive Introduction and Organization Chart



Annual Schedulee

- 2026年度年間スケジュール**
- 2月例会・LDタイム **人**
 - 3月例会・LDタイム **拡**
 - 4月例会・LDタイム **総**
 - 5月例会・LDタイム **地**
 - 6月例会・LDタイム **地**
 - 7月例会・LDタイム **人**
 - 8月例会・LDタイム **人**
 - 9月例会・LDタイム **周**
 - 10月例会・LDタイム **地**
 - 11月例会・LDタイム **開**
 - 12月例会・LDタイム **人**

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月								
● 定時社員総会 総	● 新春互礼会 開	● 京都会議	● シティハーフマラソン	● わんぱく相撲 高槻場所 人	● 北地域8LOM合同例会(副主管) 拡	● みどりのカーニバル	● ジャズストリート	● 安満人倶楽部	● 臨時社員総会 総	● 大阪ブロック大会(ブース出店) 開	● サマーコンファレンス	● 島本夏祭り	● 高槻まつり	● 8月例会・LDタイム 人	● 9月例会・LDタイム 周	● 近畿地区大会(ブース出店) 地	● 11月例会・LDタイム 開	● 8LOM合同親睦事業 人	● 世界会議(クラーク)

Committee Introduction

2026年度委員会紹介 各委員会の担当例会および担当事業は、下段「2026年度年間スケジュール」に記載しています。

会員開 発委員会

委員長 内田 博樹 (Uchida Hiroki) ㈱Omusubi 代表取締役

会員開発委員会は、会員一人ひとりの可能性を引き出し、挑戦する心と行動力を育成するとともに、新入会員の受け入れを起点とした人材育成により、組織全体の活性化と成長意欲の向上に取り組みます。
【取り組み】 新入会員アカデミーの企画・実施

会員拡 大委員会

委員長 窪上 雄大 (Kubogami Yudai) ㈱PGM

会員拡大委員会は、2026年度の新入会員数を40名と目標設定をし、会員拡大運動を推進していくだけでなく、高槻JCの会員全員が能動的な拡大運動を起こせる組織となるために組織全体の会員拡大の運動のサポートをしています。
【取り組み】 JCジャーナルの作成 / 会員拡大の推進と連携窓口

地 域戦略委員会

委員長 西田 和弘 (Nishida Kazuhiro) ㈱西田本店 専務取締役

地域戦略委員会は、高槻市・島本町に存在する多様な地域資源に、LOMが持つ人材の力を掛け合わせることで、地域の魅力をさらに高めてまいります。地域の人々と共に歩み、取り組みの過程を大切にしながら、郷土愛と誇りを育んでまいります。
【取り組み】 地域と観光体験の企画・推進 / 賛助会員制度の推進

人 財育成委員会

委員長 岩木 亮輔 (Iwaki Ryosuke) ㈱)Luna 代表社員

人財育成委員会は、会員一人ひとりが地域や組織から新たな人材を創り出すという責任感を持ち、事業や例会を通してメンバー全員で楽しく活動に向き合えるよう取り組んでいきます。

総 務広報委員会

委員長 一木 真生 (Ichiki Mao) SMC 代表

総務広報委員会は、全会員が安心して活動できる環境を整えつつ、日々の活動を発信することで各委員会の描く理想の実現に貢献し、組織全体の挑戦と成長を全力でサポートします。
【取り組み】 SNS・HPなど広報に係る業務 / 慶弔・褒賞に係る業務

60周年準備会議

議長 出雲 恵里加 (Izumo Erika) 個別指導塾IZM

高槻JCの2027年度の60周年に向け、2026年度を準備期間として各種研究・調査を行い、中長期ビジョン策定や周年事業の補佐準備を進めます。また、組織全体の知識と意識を高め、最高の周年を迎えるための体制づくりを推進します。
【取り組み】 60周年にむけた研究・調査

- 卒業式 **総**
- 会員大会 **地**